

「“都市像”の説明」及び「まちづくりの主な課題」の修正について

1 経緯

7月27日に開催された第5回総合計画審議会において、基本構想の第1章『まちづくりの基本理念と都市像』における“都市像”の説明、及び第2章『まちづくりの主な課題』の構成と内容についてご指摘をいただき、起草委員会で再度修正することとなりました。

2 審議会での指摘内容及び対応

(1) 第1章「まちづくりの基本理念と都市像」

指摘：“都市像”をキャッチフレーズとして章の先頭に移行したために、“都市像”が導かれた背景や“基本理念”等との関係が分かり難くなってしまった。そこで、“基本構想の目的”の部分の文章を修正し、“都市像”の位置付けを明示してほしい。

対応：第1章を一つの書物として捉えた際には、“基本構想の目的”の文言修正だけでは、“基本理念”と“都市像”及び“基本目標”の本来の関係性を示すことが難しいと考えます。そこで、“都市像”に「市民と市がともに目指す」との形容を加えた上で前文のような形で強調して先頭に設置するとともに、本文では“基本構想の目的”の後に“基本理念”、その後に“都市像および基本目標”と続く構成とすることにより、“基本理念”に基づいて“都市像”を設定し、その“都市像”を実現するために“基本目標”を定めてまちづくりを展開することを分かりやすく説明します。

(2) 第2章「まちづくりの主な課題」

① 全体の構成

指摘：5番目の行財政運営は、他の4分野を縦軸とすると、それらを貫く横軸の役割を果たすものであるため、並列に並べると違和感を覚える。そこで、各分野の課題と行財政運営の課題は項目立てを分けて、違いを明確にすべきである。

対応：第2章の1として「分野別の主な課題」、2として「行財政運営上の課題」との構成とし、「分野別の主な課題」の下に（1）健康・福祉分野、（2）生活・環境分野、（3）文化・学習分野、（4）都市基盤・産業分野を位置付ける形に改めるとともに、第1章との対応が明確になるよう、分野名の後に基本目標を加えます。また、社会的な課題の部分と“府中市の現状・課題”との対比が明確になるように、“社会の動向・課題”とのタイトルを設定します。

② 健康・福祉分野

指摘：地域のニーズに応えた医療体制の充実やQOLという視点を加えてほしい。

対応：社会の情勢・課題として、「一人ひとりが健やかに暮らせるよう」との文言を追加します。

指摘：合計特殊出生率の意味が分かり難い。

対応：脚注を付けて、用語の意味を解説します。さらに、平成22年度のデータと多摩26市内の順位も本文中に加えます。

指摘：病後児保育という表現について、病児保育という言葉にシフトしているので表現を修正してほしい。

対応：「病児保育」に修正します。

指摘：“高齢者”や“高齢化”という言葉が多用されている点が気にかかる。

対応：文言を整理し、それらの表現を使用する回数を減らします。

対応：審議会からの指摘ではございませんが、“府中市の現状・課題”で本市の高齢化率が相対的に低い要因に触れるべきとの起草委員からのご提案を踏まえ、「良好な交通アクセスや住環境を背景に若い世代の転入者が多いこともあり、」を追加します。

③ 生活・環境分野

指摘：生ごみの再資源化が課題の一つになっているので追加してもらいたい。

対応：再資源化の前に「生ごみを含めた」との表現を加えます。

指摘：東日本大震災での原子力発電所の事故を受け、省エネルギーや再生可能エネルギーの使用は社会的な課題であると同時に府中市にとっても課題となっているため、追加してほしい。

対応：「地球温暖化防止に加え、原子力発電所の事故を契機とした電力需要の逼迫に対応するため、本市においても、省エネルギー化や自然エネルギーの利用を進めていくことが求められています。」との項目を追加します。

対応：審議会からの指摘ではございませんが、市民の協力のもとに実現した平成22年のごみ収集方法の変更に触れるべきとの起草委員からのご提案を踏まえ、「市民、事業者、市が一体となり、ごみ収集方法の抜本的改革（家庭ごみの有料化・戸別収集・ダストボックス廃止）を平成22年2月にスタートした結果、」との説明を加えるとともに、その後はごみ減量の実績が足踏み状態であることにも触れます。

対応：その他、“社会の動向・課題”の細かな文言について、起草委員からのご指摘を踏まえて修正しています。

④ 文化・学習分野

指摘：子どもに関わる社会的な問題として、非常に悲惨な事故が起きているので、その点を捉えた方が良い。

対応：「いじめや不登校など依然として解決に至らない問題もみられます。」との項目を追加します。

⑤ 都市基盤・産業分野

指摘：社会資本の老朽化対策としては、維持更新の際に長寿命化を見据える視点を加えてほしい。

対応：維持更新の前に「長寿命化」を追加します。

指摘：府中市の製造品出荷額と年間販売額のデータが平成20年度及び19年度時点のものであり、他の分野と比較して古い年度を使用しているので改めてほしい。

対応：製造品出荷額については、他分野と同様の平成22年度のデータに改めます。年間販売額については、“経済センサス”への移行期間であるために調査が実施されていないことから、具体的なデータと順位の記事を削除し、「26市の中では高い状況です。」との記載とします。

指摘：府中市の課題として農地の保全という視点にも触れてほしい。

対応：「市内の農地を将来に残していくため、地域に根ざした都市農業の保全が求められています。」との項目を追加します。

対応：審議会からの指摘ではございませんが、災害時や緊急時の対応も見据えた既存市街地の改善の一環として、狭あい道路・行き止まり道路対策とともに建築物の耐震化も重要な取組みとなるため、その旨を追加します。

⑥ 行財政運営分野

指摘：市民との協働によるまちづくりの一環として、市内の優良な企業と様々な形で関わりを深めようとしているので、事業者の位置付けも示してほしい。

対応：市民との協働における事業者の位置付けについては、当該個所のみならず基本構想全体に関わる内容であるため、第1章の冒頭に「※本計画において、「市民」は、住民だけではなく、事業者、在勤者、在学者並びに市内で活動する方々や団体も含んだ広い意味で捉えています。」との脚注を加えます。

指摘：行財政運営は他の4分野を横断する分野として取扱い、教育施設、文化施設、スポーツ施設などの具体例を挙げず、歳入歳出に大きな課題があることを示す文章としてほしい。

対応：財政状況の記事について、「これまでは多摩地域26市の中でも比較的豊かな時期がありましたが、近年は、国内景気の低迷による影響を受け、個人・法人市民税などの税収入の減少や競走事業の売り上げの減少による収益悪化などの影響により、市の歳入が大幅な減少となっています。一方で、生活保護や医療費などの社会保障にかかる経費、子ども、高齢者、障害のある方へのきめ細かい福祉サービスにかかる経費が増加してきており、基金を取り崩して歳入不足を補っています。今後は、高齢化に伴う社会保障経費や、公共施設、道路、下水道などの維持管理経費並びに老朽化対策経費の増大が想定される一方で、歳入は生産年齢人口の減少に伴い、減少していくことが想定され、これまでに経験のない厳しい

財政状況になることが想定されます。将来世代に負担を残さない持続可能な財政構造を確立するためにも、市の事業をより効率的にすることが求められています。」と改めます。

対応：審議会からの指摘ではございませんが、府中市の現状・課題として「自らの自治体の方針を決めて行動する」という表現では意味がやや伝わり難いため、「地域の実情に合った方向性を定めて行動する」に改めます。

対応：審議会からの指摘ではございませんが、市民の参画を広げていくためには、市政情報の発信に加えて丁寧な広聴も重要となるため、課題として「市民の声に耳を傾けて対話を重ねていく」との項目を追加します。